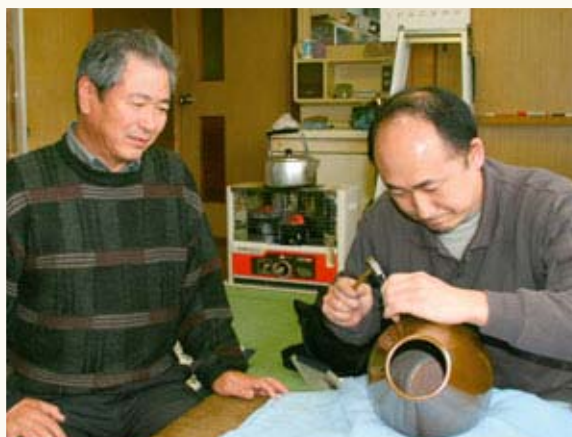


技 伝 承

W A Z A
D E N S H O

伝統的工芸品技術・
技法継承者育成事業



鳥田宗吾さんは彫金の第一人者であり、中でも象嵌[※]の表現において他の追随を許さない。その作品は、色金と呼ばれる金、銀、銅の配合比率を変えた合金を象嵌し、繊細な色調を生かして表現する緻密なものである。



彫りや片切彫りなどの技法を指導。そして、内側から金づちで叩いて模様を浮き上がらせる打ち出しや、「湯床流し」という色金の制作方法と象嵌の技法を伝えた。

平成18年度の継承者育成事業は、朝日清さんが鳥田さんの彫金の技術を1年間かけて学んだ。指導は、まず鑿^{おね}づくりから。「鑿は、その人の特徴によって一人ひとり違う。最初は教えられてつくるが、自分にあつたものをつくるのがいい」と鳥田さんはいう。

朝日さんは、「金属でいろいろな色を使って、高岡銅器の新しい表現に挑戦したい」と話す。色金を自在に扱う技法が、確実に伝承されている。



色絵象嵌花器「流動」 鳥田 宗吾
平成14年度 全国伝統的工芸品公募展
内閣総理大臣賞受賞作品

鳥田 宗吾 (本名:稔弘)

- 1940年 富山県高岡市生まれ
- 1981年 伝統工芸士認定(彫金部門)
- 1983年 高岡地域地場産業センター 御車山金具製作
- 1986年~ 高岡市伝統工芸産業技術者養成スクール講師
- 1994年 高岡市伝統工芸産業技術保持者指定
- 2002年 高岡市民功労者表彰
高岡銅器伝統工芸士会会長
全国伝統的工芸品公募展 内閣総理大臣賞表彰
- 2003年 富山県民功労者表彰
- 2004年 高岡短期大学産業造形学科講師(〜'06年)
- 2006年 祭屋台等製作修理技術者認定



● 銅器・彫金
鳥田 宗吾(育成者)



朝日 清(継承者)

「彫りは、やり直しができない一発勝負。朝日さんの繊細な表現に力強さが加わったら素晴らしい。自信を持ってやってほしい」と鳥田さん。

習作の猫を打ち出した花器は、細くやわらかい毛のニュアンスが見事に表現されている。最終作品としては、象嵌を施した花器を制作した。

朝日さんは、「金属でいろいろな色を使って、高岡銅器の新しい表現に挑戦したい」と話す。色金を自在に扱う技法が、確実に伝承されている。

※象嵌 — 金属の素地に異なる種類の金属板を嵌めこむ技法